VASUN
HQ
1104
J74+
Sept. 1894
no. 397

女學雜誌

明治十八年初刊
每週土曜日發兌
第三百九十七號

要目

外國宣教師論

外國宣教師論漸やく喧囂なり。吾輩は甚はだ輿論と逆らふ。世人何故に外國宣教師を責むる如此酷なるや。條約改正の意義は何處にありや。排ミッションは寧ろ流行のみ壯語のみ、何のエラキとかあらん。吾輩、今に方ては、反つて輿論を嫌ふ。

第二回女子夏季學校

其景況、其報告、其決議つくして玆に明白なり。

家政試問

林學士齋藤音作君、女子夏季學校の來會者に。家政上の問題二案を供出す、答論數十、尤さも趣むきあり、甚はた品多し、女學生の實況を見めすと如此きものは稀なり。

畫の趣味

無光子が、畫の趣味の說、遂に佳境に入つて、神彩陸離紙上、墨動き、美神舞ふのこゝちす。

明治二十七年九月十五日發兌

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.
(JOGAKU ZASSHI.)

第三百九十七號目録

社説
外國宣教師論
第二回女子夏季學校
大本營移さる
婦人會の活動
女學校の利用
奢飾品を捐てよ

家政
家政試問二則

畫ごゝろ
畫の趣味(其三)無光

文しらべ
藤陰存葉(中江藤樹)

徒然草
富士の山、櫻の花(白衣子)

史傳
熊澤蕃山(其三)駒田信夫

時報
鹿兒島女子實業學校○女教員の看護術練習○福井縣の高等女學校現況◎婦人の表誠○從軍の婦人◎婦人同話會○淺草公園の馬鹿統計○學務課長と藝妓○淺草の代議士と吉原○海外に於ける日本醜業婦統計○監獄教誨師宗門別及び人員○矯風主義の下宿開業

悲劇
魂迷、月中刄　(阿波寺鳴門左衞門)
一名、桂吾良。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌

第三百九十七號

明治二十七年九月十五日發兌

社說

外國宣教師論

外國宣教師に對する不平、非難は、すでに聞くべき丈けを聞きたり。近日に及びては、當に聞くべき丈けの限りを過ごして聞くに至れり。寛容なる日本人士は、もはや此の上に超ゆるとあるべからず。

通常、人の褒貶は、適度に合わざると多きものなれども、他を難責するの時に於ては、殊に此の誤まり多きを常とす。大抵、斯の如き場合には、之を責むるの權利なきもの尤とも囂々たるを例とす。試ろみに、彈劾者の實相を窺がえば、彼等は、此際一言を挿はさむの資格なきもの也。仔細に、其緣故を質せば、彼等も亦た責難を蒙むるべき義務あるもの也。豈にひとり責を外國宣教師にのみ歸すべきならんや。

今の論客、屢ば慷慨して辨ず、曰く、外國宣教師の傳道は日本の國風に適せず、其金は無用の事に消費さるゝと多しと。然れども、試ろみに問はん、日本の所云る傳道者が施こす所ろの傳道なるものは、抑そも如何ほどに時勢の必要に適合し、目前の要緊に妙中するか。又、其消費する所ろの金錢は、何如ほどに高價なる結果を買ひつゝあるか、と。たとひ、外國宣教師の行爲にして、遺漏欠典ありしとするも、之が爲に招く損失は、彼等が行爲に遺漏欠典ありしと云ふに過ぎず。必らずしも日本の論客が懷ろの損毛にもあらず、又、其頭上に落下すべき不名譽にもあらじ。一言するに、海外多數の仁人を代表して渡來せる信切なる外國人が、不幸にして我國の實用に對して効能あらざりしと云ふに過ぎず、日本本來の利害に於て、何の影響かあらんや。然るに、此外來人の行爲に不足のものありと云ふの理由によりて、內國の論客、たゞ〳〵慷慨悲憤し、此の一事、遺漏欠典あるによりて、內國の事業すべて成効せざるかの如く歎息し、あらゆる責任は皆な外國

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

宣教師の落度に歸するが如く論究し、之に不平し、之に憤懣し、之に悲泣し、太陽は最早や再たび出でず、救ひの道は此外に絶えたるが如く絶望するの語氣あるに至ては、抑そも如何なる理由あるの故かと、不審の思ひに堪へず。

去年、陸奥外務大臣は、議會に於て堂々として演説すらく、今や内地に外來の旅行者あるによりて、年々四十万圓の國益あらんとす、何を以て條約厲行論の迂を爲すやと。然るに、外國宣教師、日本に渡來するが爲めに、日本内地に落來る外資の額は巨大のもの也。彼等が總數は六百五十人なり。其の月給は、一人五十弗以上なり。家賃、臨時費、旅費、日本語教師給料、疾病費、子を擧る一人毎に得る所の増給等は、すべて其外なり。彼等が組織せる、傳道會社としては學校に於て雇ふ所ろの日本人の給料も亦た莫大のものなり。もし此等を合算せば、新教諸派のみに於て、毎年二百万圓以上の外資輸入あらんとす。陸奥外務大臣をして若し此の事實を知らしめば、其辨論の熱心は確かに三倍半を増したるべし。

故に、たとひ、外國宣教師の傳道にして、全く其の目的を達するを能はざりしとするも、尚ほ且つ日本内閣の一大臣をして感謝せしむるに足るの國益あり。論客、何を苦しみて此の一大輸入を冷々視するや。然るに、外國宣教師の傳道は、實際全く無効なるにはあらず、たゞ理想し注文する所ろに及ばずと言ふのみ。理想の注文に及ばざるもの、豈に唯だ外國宣教師のみならんや。

抑そも、日本の論客は、何の權利ありて斯の如く切りに外國宣教師を非難するや。彼等は、外國宣教師の運動費に對して、何の義捐したる所ろあるとなし。又、彼等は、外國宣教師の運動の爲めに、何の不名譽をも負ひたるとなし。彼等は、そも〳〵外國宣教師を何ものと見做すや。外國宣教師とは、外國より助力の爲にとて來りたる信切なる客人にあらずや。此の客人は、海外にある多數の仁人が好意を代表せんとして來りたる使者にあらずや。そも〳〵日本今日の傳道たる、其の創業に屬し、力を要し金を要し人を要すると、殆んど際限あらず。此の時に當つて、外來の客、一片博愛の信切によりて來り助くるとあらんに、たとひ其の助力が存外効能あらずとするも、尚以て其好意は之を感謝して、遠來の勞をねぎらはざる可らず。然るに、其助力の効驗に申分ありとて、之を非

難し、非難尙ほ足らずとして之を罵詈し、罵詈尙ほ足らずとして之を追ひ返さんとするの權幕あるに至ては、雅量の小さき、物事の分らざるは言ふに及ばず、客に對して禮を知らざる蠻野至極の處置として、識者は爲めに慷歎せざるを得ざる也。

凡そ、助力者の助力に對して不平を言ふものは、大抵、自から勤勞せずして人をのみ使はんとする橫着我儘なる主人に多きものなり。もし然らざれば、主人、其主人たる責任を忘れ、客を客とせずして之に同一の責任を負はせ、汝も吾と同樣に重荷を負はざる可らずと斷定して、而して其盡力の足らざるを見て怒るもの也。外客の助力に對して不平を言ふものは、必竟、此の二樣の不了見に歸するを常とす。

惟みるに、我國新敎の信徒四万人、敎師傳道者神學生合計一千二百餘人、集金每年六万一千五百圓。以て、獨立、日本の傳道に從事するに足る。たとひ、すべての外國宣敎師悉とく退去し、すべてのミシヨン事業悉とく中止すとも、日本の信徒は、尙以て獨立、我日本大傳道の事業を擔當することを得べし。日本人本來此の獨立力あり、此の自動力ありて、而して

尙ほ外國人の來つて助力するに會ふ、此れ非常の僥倖、豫算外の所得にあらずや。當に感謝して之を勞すべき也。然るに、此の外來の助力者が効能に付きて紛々辨論し、其行爲が正鵠に中らざる以上は、日本の夜の明けざる如く感ずるの躰なるは、不審に堪へず。思ふに此不平は、主として、海外の客に委賴することを知つて而して肯て獨立するの氣力なきの人士が卑屈心より發し來ることなきか。所云る主客の地を顚倒したる不了見なる二樣の主人が氣儘の不平にはあらずや。果して然らば、斯る不平家は其不平を公言すべき權利なきもの也。

日英條約、新たに成り、內地雜居、五年の后ちより快行されんとす。日本の大勢、斯の如く、日本の宏量、斯の如し。日本は、あらゆる外來人を歡迎し、すべての携帶物を吸入せんとする也。玆に、宣敎師と其事業とあり、たとひ其の目的は彼等が揚言する所の目的に適はざることありとするも、大量なる日本は、一々之に頓着するに及ばず。もとより義俠なる日本は、此土に來りて施行さるる揔べての事業に對して、其成効すべきことを信切に希望するは、勿論なりと雖ども、多數の外來人の中には、成効者もあるべく、亦、失敗者もあるべし。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

然るに、此の失敗者あるの故を以て、同業に從事せる日本人が、慷慨し、悲鳴し、日夜、其始末にのみ汲々として反つて自から活動することを忘るゝの理由あらんや。外國宣教師も亦た日本に渡來したる一の事業家なり。此の大なる日本は、之を歡迎すると共に、之をして自由に働らかしむべし。之によりて日本人本來の事業に何の關わりあらんや。日本同業の傳道者たるもの、少しく無神經にして可なり。

故に、吾人は、外國宣教師を歡迎し、其好意を謝し、自由に營業あらんことを勸告し、毫も之に對して不平なからんとす。不平なきは、當然なり。之に對して敢て禮を欠くことなからんことを愼しむべし。

但だ尤とも熱望して措かざる所ろのものは、內地の傳道者が、無用の頭痛に勢力を損し、權利なき非難に貴重の日月を費やさずして、速やかに其の擔當の責任を盡くされんことを是れなり。

第二回女子夏季學校

第二回女子夏季學校は、一と方ならぬ掛念をもて開かれたり。然るに、其の閉校の式は、非常の感謝をもて執行せられたり。

抑そも、此回の催ふしは、初め、東京青山に於て開かるべく確定し、万事の準備、一切、此の方針に對して進向せし折柄俄然、地震の天災によつて使用すべき校舍を損し、急はかに敎場を變更すべきこととなりしかば、總ての手筈悉とく狂るひ、委員等の苦心名狀すべからず。ことに、來會すべき女生の思惑も、急に豫算と相違したるとゆへ、來り聽くもの極めて尠なかるべしと思はれたり。

然るに、實際の景況は案外にて、女生の來聽するもの豫算に超え、而も、熱心精鋭の一粒よりにて、聽聞研究の趣むき、昨年の比ひにあらず。加ふるに、學科の組織、講話の種類など、太はだ宜しきを得たるが爲めに、皆な人、非常の滿足を得たり。

こゝに、其の景況の太畧を示さば、左表の如し、

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

○集會

八月三十日、開校　　九月七日、閉校

開講日數　九日

集會數　十五回

内　四回　式會、談話會、文學會

一回　校外運動會

十回　通常講義

委員數　十一名

講師數　十六名　外欠席四名

生徒數　百二十九名

内　寄宿生　二十二名　通學生　七十二名　一日聽講生　卅五名

講師出席　二名乃至三名

生徒出席　最多、百二十一名　最少、四十五名　平均、六十六名

講題種類　女學に關するもの　八回

宗教に關するもの　六回

學課に關するもの　四回

社會に關するもの　二回

祈禱會　通常講義日毎朝三十分乃至一時間。

出席　最少　廿五名
最多　卅五名　平均　三十名

○會計

入の部

第一回女子夏季學校殘餘金及利子	二一、二三五
寄附金	六〇、八三〇
學謝金	一六、五三〇
合計	九八、五九五

出の部

講師旅費	三〇、三〇〇
講師費用	三、四四〇
講師滯在費	一、四〇〇
委員特別費	四、二五〇
郵券	四、五二〇
廣告料	一、六二〇
印刷費	一、二五〇
筆墨料	、九五〇
校僕婦賄方禮	四、三〇〇
運動會補助	六、〇三〇
文學會補助	三、〇〇〇
フェリス女學校へ禮物代	三、〇〇〇
石油	二、一〇〇
電燈	二、九〇〇
風呂薪水汲代	二、七〇〇
飾付植木代	一、三〇〇
晩餐式入費	、四一〇
新聞帋	、四〇〇
	、七〇〇
計	七四、六七〇
殘	二三、九二五

○決議

一　來年の第三回女子夏季學校は、西京に於て催ふす可く、之が爲めに關西の女子教育者に交渉する事

二　右女子夏季學校へは、京濱間女子教育者の總代として女子二名を遣はす事

三　右女子夏季學校の畢りたる後ち、之に臨席すると能はざる者の爲めに、來年に限り特に京濱夏季女學會なるものを催す事

四　右二件準備の爲め、繼續委員男女各二名を撰擧する事（星野光太、田村武二、矢島楫、平野濱四氏當撰）

大躰の盛況、此の表の示す所ろによりて推知するとを得ん。

大本營移さる

大本營廣島に移り、大元帥陛下は玉座をかしこに移させ玉へり。陛下すでに寶簾の内より出でゝ、軍旅のやどりに入らせ玉ふ。吾輩臣民、さらに一層の奮發なくして可ならんや。

婦人會の活動

もろ〳〵の婦人會、多くは事業なきによつて、活動なく、活動なきによつて、大抵衰廢せり。今ま其の狀態の、有れども無きが如くなるもの、蓋し少なからじ。左れど、今日に際しては、現に有効なる一事業の存するにあらずや。即はち、會員、須からく遠征軍人の遺族を訪ひ、懇ごろに之を慰さむべし。之に扶助し、之を維持するは、市町村に於て其の方あるべし、たゞ男子なき遺族に出入して信切に介抱することは、婦人會員の手を待つて初めて行なはれんとす。之れ眞とに穩當にして有益なる事業にあらずや。

女學校の利用

冀はくは、赤十字社の篤志看護婦會の如きものを數多設立せん、而して、所々の心ある婦人をして隨意に就て學ぶことを得せしめん。

婦人が特に看護に適することは言ふを待たず。一朝大事迫まるの時、看護法を知れる婦人の効力多からんことは、何人も疑がはじ。天災地變あるの際み、被害者を救助するに於て看護法を知らざる婦人の遺憾は、筆紙之を盡さず。

如今、邦家に事あり、たとひ各國の婦人、皆な戰傷者を看護するの運に合はずとするも、今のときは即はち看護法研究に志を立つるの秋にあらずや。

一週半日、相ひ會して敎を受なば足れり。望むらくは、四方の各女學校、分に應ずるの便利を有志婦人の會習に備えよ。

奢飾品を捨てよ

恤兵義献の方、先づ金銀の奢飾品をつぶして之を寄附するに若かず。通貨を減ずることなき、第一の利益なり。儉德を養なふに至る、第二の利益なり。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

家政

家政試問

下の二問は、女子夏季學校に於て、林學士齋藤音作氏が試ろみに揭題して答を要められし者也。其の答案數十通は、意義に隨がひて合別し、畧して大意を摘記せり。

(1) 主婦下婢に命じて砂糖を買はしむる途中にて雨に遭ひ砂糖濕りたり之を乾かす其法如何。

砂糖乾燥法の答さまぐ

一、速ならんと欲せば「ホウロク」を熱して其中に入置くべし
一、速かに火上に熱して濕氣を去るべし
一、陶器又は盆に入れ寒冷なる處に入れ置くべし
一、「ブリキ」の鑵内に入れ置くべし
一、火上に金網を置き其上に紙又は布を敷き其上に砂糖を薄く延してあぶるべし
一、細かき目の平き籠又は「ザル」の內に清き布を敷き其上に砂糖を成るべく廣げ餘り風の強く當らぬ處に置くか又は風當のよき處に掛け置くべし
一、熱に遇ひば熔くる故團扇を用ゆべし
一、少しならば土瓶の蓋の窪き所に置くべし
一、茶碗ふきの如き切に包みて灰上に暫時置く時は濕氣灰に吸收せられて乾くべし
一、速かに表面の濕ひし處を皿又は鉢に移し濕氣の內部に移らざる樣注意すべし
一、先づ中央の乾きたる砂糖と混和すべし
一、篩の中に薄く廣げ風當のよき處に置くべし
一、火にて少しあぶりたる物の內に暫時入れ置くべし
一、初め火に當れは熔解すれとも充分に當れは全く其水分を蒸發して結晶す
一、遠火に「ホウロク」を懸け其上に砂糖を散布すべし
一、濕氣の速かに感せざる陶器又は塗物に入れ火鉢の側に置くべし
一、瓶中に入れ一二寸の隙を造りて火の傍に置くべし
一、長火鉢の「オトシ」又は下の抽出に入れ置くべし

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

一、蟻のつかぬ樣注意して風通りの宜しき處に置くべし
一、成るへく薄くして紙又は鉢の上に撒布する時は塊狀となるを免るべし
一、乾きたる紙二三枚重ねたる上に載せ其紙下に脫脂綿又は海綿を敷きて日影の風通りよき處に置き風に飛び去られざる注意を爲すべし
一、湯又は水に溶解し置くべし
一、夏時なれば煮つめて液躰になし置くべし
一、妻君若し途中に雨に遇ふことを氣付かは直ちに傘を持たしむべし若し人なき時は近所ならば自ら行き濕らざる樣注意するに如かず
一、晴日太陽の熱にて乾かすこと

試問者要括示敎

砂糖は攝氏百六十度に熔解し二百十二度に至れは水を分離して暗黑色の「カラーメル」塊となり更に熱すれば炭となる故に
一、熔解せしめざること
二、水分の蒸發を早むる爲め成るべく高熱に接し成るべく空氣を流通せしむること
三、風に飛散せしめざること
四、塵埃のかゝるを防ぐこと
五、蟻を防ぐこと」の五つを以て乾燥法を思案すべし

(2)
井水の冷かなるを以て得意なる家の主婦、下婢に命じて客に例の冷水を進めしむ。此時下婢は二手桶の水を同時に汲み來り既に一手桶の半は用ゐ居たりしが主婦の命をきくや其使ひかけたる手桶の中に柄杓のありしものから何心なく其水を「コップ」に入れて客に出さんとす。主婦之を見て直ちに席を立ち自ら其水を棄て更らに滿水の手桶の水を盛らんとす。其汲み樣は先づ柄杓を取り其底を斜にして靜かに之を手桶の底の方に入れ暫時留め置きて又靜かに擧げ柄杓の水面に出でし頃凡そ之が三分の一程抛棄して後コップに注ぎしが又其水を棄てゝ二度目に入れたる水を客に進じたり。下婢もし心あるものにして主婦に對し僅かなるに何故此く手數をかけ給ふやと問ひたらんに主婦は如何なる說明を與ふべきか

右の答さま〴〵

第一、半の水を捨てゝ滿水を取りたる所以の答種々

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

一、遣ひかけの水は沈澱物を浮遊せしめ居りて淸き處なき故

一、遣ひかけの水は動きつゝある故多くの外氣に觸れ靜置せる水よりも早く温化する故

一、遣ひかけの水は動きつゝある故冷温混じて冷き部分なき故

一、遣ひかけの水は量少くして温化易き故

一、遣ひかけの水は度々柄杓を入れし爲め下女の手より滴り又柄を傳へたる汚水の混入せる恐ある故

一、遣ひかけの水は大抵己の近くにあるものなれば洗汁等の飛込む恐ある故

一、未た使はざる方心地よき故

一、滿水せるものは心地よき故

一、客人の感觸を害するなき樣注意する故

一、客には新らしきものを呈するが禮なる故

一、客に使ひ遺りを呈するは無禮なる故

第二、柄杓の底を斜に持ちし所以の答種々

一、底を平に入るゝ時は多く水を動搖する故

一、倒にする時は空氣漏れざるにより底にて起せし時急に漏れて水を動搖する故

一、横にして入るゝも水を動搖すること多く又多少の空氣柄杓の沈下するまて殘り居ることある故

第三、靜かに底に入れし所以の答種々

一、水面は混化すること多き爲め底の冷きを取る故

一、水面には塵埃浮び居るを以て之を避る故

一、靜にせしは水を攪亂して上部の温と下部の冷とを混和し又泛べる塵埃や沈澱物を遊離混淆せしめざる爲め

第四、暫時留め置きて靜かに擧げし所以の答種々

一、表面の温化せる水其内にある故此もの浮上して傍の冷水自然に之に代るを待つ爲め

一、靜かに擧ぐるは内部に入りし内の散亂混和せざる爲め

第五、柄杓の水面に出でし頃凡そ三分一程拋棄せし所以同

一、表面には多小温化せる水混し居る故之を去る爲め（靜かに傾くる時は底の冷き重き水流出する恐あり）

一、コップに入るゝ時滿水しあれはコボシ易き故

第六、コップの水を一度棄てし所以同じく

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

一、コップを冷して後入るゝ時は水益冷なるを得る故
一、初めより汚塵を附着せる恐ある故之を去る爲め
一、前に棄てし水の多少附着して殘り居る故之を洗去る爲め
一、假令不潔の恐なきにもせよ既に一端入れしものを捨てたりと客に知られし以上は其客の感情を安んずる爲め
一、前に遣ひ水を入れたる失禮を洗去る爲め

畫ごゝろ

畫の趣味（三）

無光

山高く溪幽に、松林の間、隱士童を伴ふて吟行するは、豈に高潔ならざらんや。而して畫を見るとき、俗氣婬風紙面に溢るゝを覺ゆるは何ぞや。觀音菩薩一瓣の蓮花に乘りて大海に浮ぶ、波洋々、衣翩翻、豈に莊嚴ならざらんや。而して畫を見るとき、山師の輕業的なるは何ぞや。獅子王奮鬪、雲起り地鳴り、岩石飛び鮮血淋々たり、豈に壯觀ならざらんや。而して畫を見るとき、拜金宗の銅を爭ふて、生命を知らざるが如き觀あるは何ぞや。花容楚々人を動かすの令孃、纎手琴を彈じ、巧に玉音を轉がす、豈に優美ならざらんや。而して畫を見るとき、狹斜の紅裙が媚を賣るの狀あるは何ぞや。高きも卑く、淸きも穢れ、美きも醜くゝなるは、そも何たる故ぞや。試みに畫の趣味を問ふ。先生咳一咳、憤慨罵倒、他を見ること小僧の如く、世を見ること豚の如し、喋々千言萬言、誰か其雄辨に恐縮せざるものあらん。而して論ずる處は、筆の使ひ樣にあり、色の塗り方にあり、圖の組立にあり、甚だしきは、手の動かし方に在り、體の座はり方に在るなり。去て或一種の社會を觀る、何學校といひ、何會といふ。日本畫は摸樣畫なりと罵れば、西洋畫は左官屋なりと譏る、裸體畫は風俗に害ありや否やとて、討論幾日、決議を採るとか採らぬとかに又々囂々、蛙鳴き蟬噪ぐ。國粹保存とかいふ臆風に吹かれて、西洋畫有害なりと排斥すれば、壓制無禮なりとて、愁訴惡口、新聞紙上に踊るやら、檄文やうのものを廻はすやら、寫生でなければならぬと威張れば、毛筆の妙は世界第一なりとて獨角力を誇る。何じやかんじやの議論沸騰、與

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

味索然として、土百姓の水掛論に髣髴たり。一方に於ては、學者の面々、畫論と唱へ美學と稱して、頻りに畫の原理沿革を擧げて、無責任なる辯論を弄し、以て得たりとなすものあり。最なるものは、高き學問もなく、筆持つすべも知らず、何か世間知名の士なりとかいふ看板を掛け、美術論を講ずるやら、技術界に世話燒くやらして、風流家氣取り、美術家氣取る方々さへあることなり。其中最も嘆ずべきは、繪畫其他美術品の、外國輸出如何に依り、貿易經濟上の都合を見て、一國の美術の基礎を論ぜんとするものあることなり。而して驚駭に堪へざるものは、技術家の中には、此等の人の鼻に依り、庇蔭を頼み、其頤使命令を奉じて、己が技量を賞せられんことに苦慮するものあることなり。今は改革時代、混沌たる世界の常として、是等は避く可らざる事とはいへ、實に其弊害に堪へ得べからざらんとす。

斯くして猶ほ美術なりや、畫論なりや、風流なりや、優美なりや、偉大なりや、莊嚴なりや、余等は頗る惑はざるを得ざるなり。余は今日、畫家に向つて、常に詩情を養ひ、自身先づ美の境に入らんことに工夫あらんを希望す。然らざれば如何に古人を崇拜しても、其眞を見る能はず、如何に筆彩の巧緻を求むるも、徒らに輕薄無味てふ嗤笑を招ぐに過ぎざるべければなり。又學者に向ては、少なくも畫の巧拙美醜の、正確なる鑑識を備ひ、而して畫家の經營のある處を探られんことを希望す、然らざれば如何に書籍上の講談は知り居らるゝにもせよ、其立言は、向岸の火事と同一視せられ、迂濶空論てふ嘲罵を遺すべければなり。斯くして技術家と賞鑑家と、鳥の兩翼、車の兩輪、互に頼み、互に尊み、相勸め、相進むを得ば、世は誠に幸福なる哉、世は誠に感謝すべき哉。

余れ畫道を歩むとき、入るに隨て益深く、進むに隨て益廣く、眞趣味の在る處を識らんと熱中すれども、如何なるものが果して其眞體なりやといふに至ては、到底其處に參徹するに非るよりは、決して其眞味を味ふ能はざるものなるを知れり。十歩進めば十歩の見あり、百歩進んで百歩の見あり、天地に亘りて天地の見あるなり。其之を得るに當ては、明月の天に懸るが如く、紫雲の花梢に棚引くが如く、意に解し、心に覺りて、獨り莞爾として微笑するなり。而して腕は是に導かれ、是に追はれて、唯々として從僕の如く、其命ずる處に赴くの

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

み。主と僕、僕と主、其處を得、其分を守り、相依り、相扶け、違はず、悖らず、主跳るとき僕も跳り、主靜かなるとき僕も靜かに、主樂しむとき悲しむとき、僕も亦之に應ず。かくして、主と僕一致協合、放つ可らず分つ可らざる間に於て、神品も出で來らん、傑作も顯はれなん。僕跳て、主之を制する能はず、僕眠て、主之を起す能はずんば、亂雜倫を紊れるもの、何ぞ一事の仕出すものあらんや。技術は趣味の赴く處に隨て、始めて其自身趣味と化す、趣味なき處いかで、技術に趣味あらんや、技術なきとき、趣味如何で顯るを得んや。」

余が第二回に於て擧げたる數種の畫は、余が大なる尊敬を奉つる處のものなり。畫はかく向へかしと望む所のものなり。素より彼等の腦力手腕等は各差異あり、然れども彼等は自家の滿足する程度に於て、技術を使用せしなり、而して彼自らは主僕一致せしなり、己が人に與へんとする興味は、善く之を顯はせるなり。畫道に於て、彼等は余等が尊むべき先蹤に非ずや。余等が餘り狹隘に、餘り汚穢に、餘り懦弱になれるとき、彼等を想ひ起すときは、余等をして廣からしめ、淸からしめ、强からしむるを得るなり。

彼九相の圖なり、裁判の圖なり、地獄の圖なり、マドンナの圖なり、屁合戰の圖なり、何ぞ夫れ美なるや。余等是等の畫に付て熟慮するとき、美術といふものに對する感念の、從來のものと頗る異なるを覺えざるを得ざるなり。うつくしいといふ事にもあらず、尊といといふにもあらねば、大きいといふ事にも、悲しいといふ事にもあらず、而して何となく余等の心中に潛める琴線が、一の絕對的に快樂なる音樂を奏づるを聽くなり。余が第一回に述べたる、深山大海の趣味も亦實に爰に在り、美人の中に、乞兒の中に、花に、河に、農夫に、遊君に見出す處のもの亦實に爰に在るなり。

されば畫の趣味といふもの、豈に一定の形の中にあらんや。美人必ずしも美ならず、糞尿必ずしも汚ならざるなり。余若し心淸く、神美しくあらんには、余が情の勃興喚發するとき、如何なるものが筆に應じて出で來るにかせよ、皆以て畫品の中に入るべきなり。彼畫を許するの人、或は畫題、或は格式等に依りて、直ちに其畫品を審判するものあれども、余は其誤れるを信ずるなり。或は只に古人が嘗て成効したりといふの故を以て、直ちに其途に歩みて疑はず、人の是に對して其

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

失を誚るものあれば、彼れ眉を逆立でゝ、證を引き例を取り、古人既に畫く、余れ何ぞ不可ならんと、傲然自から覺へず、而して實は全く古人の意に悖るを知らざるなり。彼巨勢なり、土佐なり、北宗なり、狩野なり、雋傑は決して此の如き無氣力なる依賴心は有せざりしなり。又彼等は理屈に依りて畫を作りしにもあらざりしなり。其寫生を勤めしは、天然の奴僕たりしにはあらざりしなり、唯彼等は美神の面影を彼方に望みつゝ、其目に來る處のものを手中に受けて、而して之を畫頂上に顯はし、以て美神の肖像を試みしなり。故に彼等の作は、技術の拙く、趣味の狹きものなきには非るも、生氣溢れて品調高く、能く美神の姿に髣髴たるものあるなり。余等は生きんが爲めに食ひ、住ひ、衣るに非ずや、若し、食ひ、住ひ、衣るが爲めに、食ひ、住ひ、衣るならば、余等の身は病み、或は遂に亡んなり。米の爲めに米を食せず、綿入の爲めに綿入を着ざるなり。赤兒に米飯を與ひ、三伏の候綿入を着なば如何。畫の爲めに畫を畫くは亦此の如きのみ。畫家は此趣味の爲めに畫くなりと余は信ず。

實に此趣味は余等の眞心を以て、美神より得たる處のものなり。眞正の快樂は此の中より生ずるなり。余等は畫術といふ一の途をたどり、眞心の導きによりて、此聖山に登らんとするなり。其紫霞に包まれたる姿を、漂渺の間に見失はざらんやう氣付けざる可らず。其大空に高き頂きを紛らはしき群山の間に取違へぬやう心付けざる可らず。途は多し、唯汝の好む處に任せん。途は難處なり、仆れず、跪かざらん爲には、頗る健足ならざる可らず。而して旅行者は、畫才といふ足を持たざる可らず、臨摸といふ地圖を撿べざる可らず、寫生といふ實地探撿をせざる可らず、筆絹といふ旅費を備へざる可らず、里程の遠近測る可らず、歳月の期限識る可らず、かしこに達せんこと中々容易なる事には有らざりけり、余等は只余等が信する處をいふのみ。

冬も議會ありてより恰かも春の如くなれり。秋も戰かひありてより宛から夏の如くなりぬ。

虫の音はすゞし、星の光りはきらめく、夜ふけて獨り庭もせにあり、即はち天地の奥にあり、人情の宮にあり。

文しらべ

藤陰存葉

中江藤樹

正眞の學問は如何樣なる學問にて候や。

曰く、先づ明德を明らかにするを志の根本と立定め四書六經の心を師として應事接物の境界を砥石と定め明德の新玉を磨き五等の孝行五倫の道至善を能行ひ大和を保合して利貞なる故に時に合て用いらるゝ時は四海を正し天下を治め伊尹大公の事業をなし時に逢はずして窮する時は獨り其身を能し性を盡し命に至て孔孟の敎化をなすを正眞の學問と云なり。

人間の願ひ品數多御座候得共結極る所は才德功業人に勝れ富貴長生の心の儘ならん事を願ふより外は無し學問にて才德功業の人に勝れんとは實にもにて御座候富貴長生を願ひの儘に得ん事は成り申間敷と存候孔子は位を得給はず顏子は簞瓢陋巷不幸短命なりと承り候得ば古來聖賢人間の願ひを思儘に得給はず候事公明に候間おうせ候處信を取難く候

曰く是にても心迹の差別御入候迹にて御覽候ては御不審最にて候心にて見候得者不審は少しも無く候聖人の心は富貴を願はず貧賤を厭はず生を好まず死を惡まず福を求めず禍を避けず只身を立道を行ひ給計りにて凡夫の願は毛頭無き故に自から願ひの儘にて凡夫の願ひを思ふ儘に求め得たるよりは一位心の樂みは增にて候其上凡夫の願ふ富貴は小富貴と云て小さき富貴なり小さき富貴の外至富至貴と云て廣大無類なる富貴あり此大富貴は凡夫の目には見へぬ故に求め願ふ事なし聖賢は此大富貴を思ひの儘に得給ふに因て小富貴をば忘れ給ひて求め願ひ給はぬ故に疏食飲水簞瓢陋巷の貧賤に居給ひても無上眞樂常に泰然と有て凡夫の小富貴を得たる樂みと同じ日にも語る可き事に在らず是思ひの儘なる富貴に在らずや聖人の明德は至誠無息長生不滅にして形死しても不レ亡天地終て壽不レ竟ものなれば彭祖が八百歳も誠に夭死に異ならず是思の儘なる長生に在らずや凡夫は迹計りを見て迹に懷づみて論ずるに因て蟻の磨を旋るが如くに迷ひたる疑ひ計りなり明德の上にて論ずれば何の不審も無きものにて候

倩ら人物の有樣を考がへ見るに善き者は少く惡き者は多く

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

善き物は育ち難し悪しき物は育ち安し人間には賢人君子は稀なり偶有れとも或は不幸短命にして育ち難し小人悪人は世界に満て澤山あり盗賊などは何れの代にも捜し求て殺せども絶ず鳥には鳳凰稀にして鳶鴉は雲霞の如し獸には麒麟は世に稀にして狐狸は其數を知らず草木は靈草名木は稀にして名も無き雜木野草は山野に滿り天道は純粹至善成りと承及候得は善き物は多く悪しき物は尠き筈にてこそ候へ却て悪き物の澤山なるは何たる道理にて御座候や

曰く、善き不審にて候、其れは易學を極めざれは合點行き兼る所にて候得共大方を語り可申候賢人君子鳳凰麒麟などを善と定め小人悪人鳶鴉狐狸を悪と定め善悪の二字にさたして其れを其儘に天道に押あてでう故に因て一しを疑増申候先根本を能く考見て扨枝葉を能く吟味したるがよく候天道を根本として生れ出たる萬物なれば天道は人物の大父母にして根本なり人物は天道の子孫にして枝葉なり根本の天道純粹至善にして毛頭の悪無き神理はましませば其枝葉の人物も皆善にして悪なしと得心すべし瓜の蔓に茄子はならぬと云る諺の如し然れとも其善にして悪なき枝葉の中に精粗の差別あり其中の勝れたる極上を精と云其中の屑を粗と云精粗の二字にて君子小人鳳凰麒麟鳶鴉狐狸等の形の高下を定め扨精粗の人物の行ふ所を天命の本然神理の鏡に寫して善悪のさたを極むるなり本來悪と云物は無き物なれとも粗なるかたちの用樣に因て出來たる物なり然る故に悪を諸木の寄生に假令たり太虚の內形ある程の物は精粗の別ち無き物はなし日と月とは天の精なり辰は天の粗なり物を生する山と田畠は地の精なりハゲ山と不毛の野原は地の粗なり鸞鳳は鳥の精なり鳶鴉は鳥の粗なり芝蘭は草の精なり名も無き野草は草の粗なり沈香栴檀は木の精なり雜木は木の粗也惣て天地萬物何たる物にも精は尠く粗は多き筈にて候左候得者柱をこしらゆるに杣取より削り立る迄の木口其數を知らざる程澤山なれども柱は一本ならでは成就せざる如し扨何れの物も其物の中にて精なる物は其物の要となり主たり粗は其精に從ふ物なり然るに因て人間の精を受たる聖賢君子は愚不肖の主君となり愚不肖は臣下として聖賢の下知に從ふと天命の本然なり本來君は尠く臣下は多きものなれば主君となる聖賢少く臣下となる愚不肖多き斷り明かなり精を受たる聖賢君子は氣清く質正しき故に自ら根本の善を失は

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

す粗を受たる愚不肖は氣濁り質偏なるに因て國の仕置道あれば根本の善を失はず仕置無道なればそれに誤て根本の善を失ひ惡を成すものなり假令は癖無き馬をも下手が乘り候得者色々の曲の出來るが如し昔堯舜の御代には聖人は天子の位に登り其次の大賢人は宰相と成其次の賢人は諸侯となり其次の君子は卿太夫となり愚不肖なる物は農工商の庶人となる上天子より下庶人に至る迄分相應の位にて夫々の所作を務め孝悌忠信五倫の道に只管力を盡し毛頭も邪欲の惡念なく少の不義をも行事無くて天下に一人も惡人無し堯舜の民は比屋可封と云へるは此の事也然る時は愚痴不肖の人をも惡人と云可き理なし本來人間は聖賢も愚不肖も皆善人と成なり其善人の內に精粗大小貴賤の差別あり聖賢は善の中の精にして貴く愚不肖は善の內の粗にして賤き者なり假令は金も銀も銅も鐵も本來皆金にして其精粗貴賤の差別あり金銀は金の中の精にして貴く銅鐵は金の內の粗にして賤しきか如し斯樣の假令を能々躰認して本來人間は善計りにて惡無き面目を觀念すべし。

つれ〲草

富士の山。櫻の花。

白衣子

富士の高根
たかしや……高しや。
麓は雷電くろ雲みち〲
篠つく大雨に下界ぞ騷ぐ。
富士の高根もかくこそと
人間は思ふらめ……知らず。
うら〱の天氣大空はれて
日月くまなく照りわたる。
麓も富士なり　高根も富士なり。
富士は暴れ　富士は晴れ。
暴るゝも誠　晴るゝも誠。
高根は晴れて　麓は暴れて。

人は見る　暴るゝを。
人は見ず　晴るゝを。

櫻の花

うつくし……美くし。
あしたの風に吹雪と降ッて
土にまみれて踏躪られぬ。
花はかくこそ哀れ果なと
人間は思ふらめ……知らず。
花ははなれ美しごゝろ
風にも吹かせ人にも踏せ。
さくも花なり　ちるも花なり。
花はさかえ　花は衰ろへ。
榮ふるも誠　衰ふるも誠。
散れば衰へ　咲けば榮え。
人は見る　衰ふるを。
人は見ず　はなの花。

史傳

熊澤蕃山（其三）

駒田信夫

○其謹儉

蕃山は夏の頃にも單衣、唯二つのみにてありしが、一老婆のいたく窮せるを見て、着てをりたる衣を脱きて與へ、自らは浴衣を着け、婢に他の一衣を持來らしむ。婢曰く、今洗ひたるばかりにて、未た乾かずと。因て別に一衣を製しき。其儉なると、率ね此の如し。然れとも公事に關せることは、費を吝まず。軍事の備の如き、貲を盡して求めたる事ありき。常に曰く、齊家の道は、歲計を知らざるべからず。若し千石の祿なれば、六百石を公私の用に供し、其餘の三分の一を、不虞に供へ、三分の二を一年の雜費とするなり。然すれば足らざるを、憂ふる事なしと。家には多く壯丁を養ひ、良馬を畜ひ、常に身を下して、士に交り談論して、終日も倦まざりき。

蕃山嘗て江西の塾中にありし時、同窓の友、笠原竹友といふものと、意氣相投し、交際尤も密なりき。其後蕃山は備藩の執政となり、君公に從て關東に趣き、趨從を多く從へ、途に大津に宿りし時に、竹友之を聞て、餅餌を竹皮に包みて、竹頭にかけ、特更に醜貌を損して、旅亭に行き見えんことを求む。旅亭の人、其微賤なるさまを見て、容易く通すことを許さず、乃ち姓名を陳して、漸く通せられたり。蕃山驚きて曰く、笠

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

原先生來るか、何ぞ速に我に告げざると。自ら出てゝ迎へけり。竹友禮せずして曰く、吾疲れたりと。直ちに堂廉に踞きぬ。蕃山乃ち其鞋を解きて、内に入ることを勸む、竹友笑て謝し、相携へて室に入り、酒を酌み通宵、舊を談し情を述べて別れけり。見るもの嘆美せざるはなかりき。

富貴に居て貧賤に驕らず、故に貧窮に所しても、亦晏如たり。其志、名利にあらずして、天下國家にありし事明なり。

○職を辭す

此頃、已に其才を妬み、其榮を羨むものありしと見え、承應三年、藩主に從て江戸より、國に歸る時に、京師を過きて所司代板倉重宗を訪ひしに、重宗曰く、子、明君に仕へて、言聽かれ計從はる、誠に大幸といふべし。然るに子の失は、事を一身に專任するにあり、恐らくは世の誹謗を免れさらん。子の爲に計るに、早く致仕して其終を全くするに若かず。今より又東すると勿れ、また世事をいふと勿れ、之れ功成り、身退くの義なりと。蕃山謝して歸りき。然れとも眷遇の厚きが爲に、俄に骸骨を乞ふ事を得ず、且弟子等曰く、京兆は商賈の政のみ、何ぞ諸侯の事を知らんと。後又、命を奉して江戸に來れば、此時果して事を共にするものと隙あり、心平かならず、之より辭任の志あり、且つ年來あまりに、身心を勞したる爲に、いたく衰弱したりと見え、左の如く自から記せり。曰く、

夏の暑氣にも日中に鐵炮をもち、野に出て雲雀をうち、霜月極月の雪霜を分て、山中に入候へども夜衣、蒲團持せたることとなし、うす綿のはだ衣の上に、木綿袷かさねたるはかりにて挾笥一つ持せたるも半は硯紙書物にて、小袖二つはかり入たるまてにて、民の家のあばらなるに行かゝりに泊候ひき。其外のつとめは、くはしく申に及ばず候、三十七八歳まで、かくの如く勉め候故に、終にふとり申さず候。中略身を輕くあつかひ候段は、今に存じたる者多く可有之候。四十前後、大病切々病み出し、其上に山より落ち、右の臂をいたみ候へば、口強き馬にのられず、弓ひかれず、鑓も不自由に候へば、武士のつとめもこれまてなりと思ひて、隱居いたし候云々

山より落ちたるは明曆二年なり。武事に堪へずとて、職を辭せん事を請ひしが、容易に聽されず。是に於て、公子八之丞君を賜ひて、嗣かしめられんと、大夫池田伊賀によりて之を請へり。侯も快く之を許し、明曆三年八月二日を以て、熊澤氏に賜へり。八之丞は即ち、池田氏の庶子にして、輝祿といひ、後に蕃山の請によりて池田と稱し、番頭となさる。光政卒し嫡子立つに及て、寬文十二年、父功によりて、分地直參となされ、一萬五千石を賜はり、池田丹波守政倫といふ。家學を繼承して、忠孝の義に於て明かなりしといふ。

之より先、屢々辭任を請ひしか、是に於て終に許され、其年の冬三十九歲にして致仕し（藩仕十有一年）所領、和氣郡蕃山村に退隱し、名を蕃山了介と稱せり。

蕃山村もと寺口村と稱せり、其改名の故は、新古今集にのせたる、「筑波山 端山 しげ山繁けれと思ひいるにはさはら

さりけり」といふ歌の意によりて、蕃山が付けたるなりといふ。或は之を以て嘉遯の意を示せりといひ、或は此歌は、王陽明の立志の説にあるか故に、取れりとも云ふ。始め姓に用ゐ後に村名にも用ゐたるか、又は村名を後に、姓としたるか明かならず、之を號に用ゐしは後の事なりき。

（備考）　此頃ろ同列に、津田佐源次（一に左源太）といふ奸臣ありき。蕃山の職を辭するに至りしは、此者の關係より起れりといふ説あり。江戸へ出る時に、事を共にするものと、隙ありしといふは、或は此者の謂にあらざるか。蕃山遺聞に、津田の事を書けり。曰く「備前ノ家士ニ、津田左源次トイフモノアリ、中奥ヨリ召出サレ、番頭ニ昇進シ、祿三千石ヲ授ケラル。奸智ノスクレタルモノナリ。先生之ト不和ナリ、佐源次、備前組ノ内五万石ホドノ租ヲマシタリ、酷迫ノ人物ナリシトゾ。津田が下役ニ、橋本茂衞門ト云フモノアリ。津田が悪事三十ケ條ヲ錄シ、左源次が宅ニ到リ示ス。左源次答フルヿ能ハズ。スグニ芳烈公ニ上ル。公モ亦、左源次が善事三十條ヲ記シテ、茂衞門ニ見セタマヒシが、左源次が職ヲ奪ヒ、蟄居セラレシトゾ」云々　池田氏も津田の才あるにより、一時之を用ひしも、其奸智に長し、衆望なきを見て、之を放ちしなるべし。

時報

◎學校、教育

○鹿兒嶋女子實業學校　鹿兒嶋市の有志者は豫てより同市に一の實業學校を設立せんとて企畫中の處今回其組織設備全く成りたれば愈來る十月一日より始業する由教師は神田なる共立女子職業學校教師二人幷に同校卒業生一人を聘せられし由

○女教員の看護術練習　函舘なる高等女學校の女教員諸氏は各自授業の餘暇を以て函舘病院に就て看護術を練習し熟達の上は其の受特の女兒に看護法を會得せしめんとて目下協議中の由

○福井縣の高等女學校　福井縣に於て女子に稍高尚なる普通教育を授くる所は、福井市に縣立高等女學校あるのみなるが、今其現況を聞くに、職員は校長兼教諭一名、教諭一名、助教諭三名、雇教員三名、書記兼雇教員一名、舍監一名、舍監心得一名なり。生徒の現在數は六十二名にして、昨年中の卒業生徒は、二十三名にして、内廿一名は小學教員志願なるを以て、乙種檢定に付し、尋常小學校准教員免許狀を授與し、直ちに教員に採用したるは十四名なり。生徒の教養に關しては、鋭意改良を圖り、普通の學科を授くる外、女子に最も必須なる裁縫は勿論、割烹等を實習せしめ優淑順良にして、家政を處理するに適し、併せて教員たるに適合すべき婦女を養成せん事を期せり。（教育時論）

○夫人の表誠　女子高等師範學校舍監山川二葉子及び瓜生しげ子、永田けい子、武田みつぎ子、梶原さし子等主唱者となり左の趣意に基づきて義金を募る

今般日淸開戰と相成候に付ては國威を輝かさん爲め遠く異域に派遣せられたる我海陸軍隊の勞苦は漸次嚴寒に向へば一層甚しからんと存じ我々同志相謀り廣く金員を募り防寒の具を製し以て之を恤兵部に納め聊其勞苦を慰めんことを計畫致し候併し最早貴夫人方御企の內へ御出金相成候向も有之候はんが何卒此趣意御賛成被下多少御出金相成候樣希望致し候

追て御寄贈金員は金拾錢以上十月十五日迄に主唱者の內へ御廻送有之度尙ほ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

寄贈出品は可成速かなるを要し候間集りたる金高に應じ其筋の方々とも相謀り主唱者の相談を以て決定可致に付此段御承知被成下度候也

○從軍の婦人　朝鮮仁川にある我日本篤志の婦人十數名は看護婦として從軍したき旨願ひ出で已に許可を受けたる由兼れて聞つるが去月廿三日の夜旅團長より至急來るべしとの急電に接し翌日漢陽號にて龍山に向ひ出發したりと云ふ仁川の居留民は諸氏の志を壯とし數十の群衆は之を埠頭に見送りしと聞く勇ましき哉

◎片々

○婦人同話會　北海道根室なる白毫寺土岐氏妻及ひ其他の發起になる同會のはしがきと云ふを得たれば左にかゝぐ

近頃は婦の風儀なにとなく悪き風に慣れ落るはまことに氣の毒に存ずるも今更之をかよわき妾等などの矯むることならねば唯同じ心の御方を語らひて世のあしき方に流れぬ樣に婦の道を聊かまもり斯に婦人同話會てふものをこしらひ月毎に一度づゝ集ひて御みのり數のはなし又世の草ゝはなし抔をもいたしお互ひに家の政を治むる重き職めを得る身なればそのつとめのことは種々とかたらひこどものそだつる道をもつとめて心かけ世の笑をなりたけ享けぬ樣と存じたることなれば御入の程を待申はしがき敬みて白す

○淺草公園の馬鹿統計　「日本新聞」淺草公園第六區の妙なるものを統計す、こは觀世音境内のみなりと云ふ

玉投	六	寫眞屋	二十八	射的屋	七
酩酒屋	九十二	大弓屋	九	楊弓店	三十六
壽司屋	二十一	待合茶屋	三十一	鳴物	十七
藝者屋	四十一				

○學務課長と藝妓　歩兵第四旅團長伏見宮殿下には先頃職務を帶びて管内青森縣弘前に御巡廻あらせられ同北寺町石場方に御投宿の折縣官(學務課長)石井某氏は藝妓米なるものをして殿下の御給仕爲さしめんとしたるより地方の有志者は斯る賤業者を貴人の御前に近つかしむるは不敬の至りなりとて之れに反對したるのみならず頗る憤激目下縣知事に向て石井學務課長の免黜を迫り居れりと云ふ

○淺草の代議士と吉原　北里遊郭には撰擧權を有するもの少なからざれば淺草區撰出の代議士は吉原の遊郭の意向を察するを必要となすとなるが今回須藤時一郎氏は弟哲四郎氏と戰て見事撰擧せられしも吉原の力多しと云ふされぱにや一夜部下の運動者百四十人を北里に誘ひ各樓に分布して盛んに宴を張る其費用五百金と傳へ聞く何等の慨事ぞ。

○海外に於ける日本醜業婦統計　福島縣耶麻郡喜多方町硯友文華社より「硯友文華」と題する一雜誌を發兌す同誌第一號中に「日本醜業婦の狀態」と云ふ一文あり、已にめざまし新聞上に出てたるものなれば、爰には唯醜業婦の統計のみを轉載す

地名	醜業婦	貸坐數	地名	醜業婦	貸坐數
浦鹽斯德	四二〇人	一四軒	ニューチヤン	三〇〇人	一五軒
天津	三五〇	一二	厦門	五〇	一七
フーチウフ	四〇〇	一六	香港	二五〇	一七
廣東	二五〇	一〇	スワトウ	四〇	三
澳門	一〇〇	六	ニシポ三	三〇	三
西貢	三〇	四	新嘉坡	四五〇	一五
盤石	二〇	三	ピーナン	四五〇	一六
カルカツタ	五〇	七	マドラス	三〇	四
コロンボ	二	一	孟買	三八	七
アデン	七	一			

總計醜業婦　三千四百四十七人　貸坐數　百四十一軒

○監獄教誨師宗門別及人員　に就て「監獄協會雜誌」は有益なる一覽表を掲げたり(詳しくは八月刊第七十五號を見よ)今其要を摘せん

監獄數(本支署共)　百十五　教誨師人員　百六十三人

内

眞宗　百三十八　淨土宗　一　儒教　八　日蓮宗　一

佛教主義　二　禪宗　九　基督敎　四

因に云ふ基督教による四個所とは皆北海道にあるものなり

○矯風主義の下宿　曾て聖經女學校を卒業せる石岡はる女史は府下の下宿屋の往々にして廉潔の青年子女を托するに適せざるものあるを慨し獨力以て神田宮本町七番地に曙館と云へる矯風主義の下宿を開業したり規摸未だ小、家屋亦た大なりと云ふにあられど凡そ數十名を入るに足るといふ

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

桂。どうして〳〵？ながくほッとくと、なか〳〵はへるもので。

涙子。さうですとも、霜にさへ堪へるくさ木ですなら、人にしてもしぶとく。しかし、それで無ければ、ほんとの事は成せません。

桂。いや、ありがたい御教訓。

涙子。ほゝ、随分生へて！〔桂は引き捨てた草を、はゝきにしてあたりを掃く。〕

涙子。しかし、誰れか詣るか、前への方だけは掃じが出來てますねヱ。

桂。きのふ、わたしのいと子が來た筈ですから。

涙子。勝手ないと子ですねヱ、こゝいらの草は一本もぬかんで？

桂。をんなだから。

涙子。あら、さう？

桂。さァ、そのくらゐでよろしい、水がかゝりますから。

涙子。もう、このくらゐで〔わきへひかへる。〕

桂。よろしい。〔石塔に水をかける。〕ほね若しいのちあらば、つべたく感じさめやうに。……

涙子。却ってこッちがさッぱりと。

桂。ゆめの如きこの十年、むなしく去ッた時無常。しみ渡たッては、この一身、〔身を振はせる〕あゝ、置きどこが無いわい！〔倒ふれんさして、われに返へる、この時、水涙子のすそにかゝる。〕あゝ、これは失禮。

涙子。あなた、どうしたんですねェ、つべたい！〔ハンケチを出して、これをふく。〕

桂。たんとかゝりましたか？

涙子。いゝえ。あなた、まァ、どうして、倒ふれやうとしてェましたよ？

桂。つひ、知らずに。

涙子。まァ、ひどくふるへたりおしなさッて。

桂。あァあ、むかしおもひ出して、ぞッとしました。

涙子。まァ、あなた、氣をしッかりなさいまし。

桂。〔また、あたりへ水をふりまいて。〕さァ、これで大丈夫。——あなた、その花をどうぞ。

涙子。わたしがいけてあげませう。〔花を指す。〕これでいゝでせう？

桂。何流ですね？

涙子。ほゝ、何流でもよろしいは。〔桂あらたまッて墓前に拜す、次に涙子これに習らふ。〕

桂。これが十年前亡くなッた父で御坐ります。

涙子。それに就けても、和尙さんがさッきの御話し、わたしャ何んだか氣になッて。

桂。さァ、そのこと。これをあなたにはなしたり、またあなたの御履歴をゆッくり聽きたい爲め、けふ、御一所にまゐッたのです。まァ、これにお掛けなさい。

涙子。わたしもはなしたいと、つね〳〵おもッてましたの。——このいし、庭いしにいゝですねェ？〔兩人傍の石に腰かける。〕

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

桂。　神を信ずるあなたは、ほかのものはもち論をがむのでは無いでせう、わたしとてもおなじこと、いし木など拜するので御坐いません。然し、湧いて來ますうたがひ雲のたとへもおろか、こゝろのそらいち面まッくらとなる時にも、考がへるこのおのれがまよひまよふ好まず。ひろくまなぶこの學問、深かくおもふわがむねに、いよ〳〵入る苦るしみ、ます〳〵狂るふわがたま。人はこれを氣ちがひなどいひますが、まアあなた、よく考がへて見るなら、世間に誰れが氣ちがひで無いのです？

浪子。　それァ、あなた。いくら、あなた、わきから何んといッてもよろしいわ。一とつのことを一心にすれば、誰れでもすこしはさう見えますもの。

桂。　しかし、人をよく知ッてるなら、氣ちがひが却ッて深情のある證據かも知れません。

浪子。　それは、あなた、わたしがよく知ッてますわ。いつも、あなたの御親切なこと、雪子さんもいッてます。

桂。　笑らへばそれが滑稽家、泣けばそれが氣ちがひ。そんなあさはかな判斷で、深かいことはわからない。—わたしとても、わけ無く苦るしんどるんで御坐りません。あなたはまだちッとも御存じなけれど、こゝに寐むる父うへ、たゞの病氣にかゝッて亡くなッたので無いのです。あまり嫉まれた爲め、毒殺されました、宮城から。

浪子。　えゝッ！—そのことで御坐りますか、和尚さんのは？

桂。　これがもとでこの一身、いつも苦るしんで居ます。これを世に訴たへるも、證據無ければ水のあわ。父のゆゐ言に從がひ、かたき討つはやすいが、殺ろしてまた何んになる？からだあるが、早や社會。こゝろ持つが、早や法律。うき世の中むなしく觀じて見ても、やッぱり、十年のゆめは開悟せず。くち果てたるこの墓前、來たッて拜すもなんの爲め？うらみむねにむすぼれ、ほどけがたきうたがひ、恰も魔がわがきもじり〳〵食らふ如く、ほねに徹してくるしい。しかし、これは誰れにもはなさないてすから、あなたのほか知ッてもらふ友だちは無いのです。

浪子。　ありがたう。—しかし、あなた、さう御心配あそばさんでも、神のいますかぎりは、……

桂。　いや、それがわかるなら。

浪子。　それでも、お道引きくださりますよ。

桂。　それがわかりますなら、何にもまよふことは無いのです。

浪子。　あなたは、まアおうたがひなさりますの？わたしはさう信じて居ますから、わるいものは必らずほろびますよ。

桂。　それです。それがわかりますなら、決してまよひませんが。

浪子。　それでは、かみがいまして、世のをはりに必らず萬民をさばき給ふこと、うそで御坐りますか？

桂。　いや、それは、また、あなた、あなたのおこゝろで信ずることは、あなたのまたおこゝろでしかと信じて居るかよろしい。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

涙子。それでも、理に二つは御坐りません。あなたはあんまりお考がへなさらんで、わからんとはそのまゝ神にまかし、いのッてお置きなさいな。

桂。そのおこゝろざしがわたしのいのちです。たとへむねはちがッても、このふたりの交はりながく續づけたいものです。

涙子。それをわたしャつね〳〵神にいのッて居ますの。

桂。いつかあなたの御履歴を聽いて見たいと、いまゝで聽くとが出來ませなんだが、かまはないなら、どうぞ、聽かしてください。

涙子。あの、赤木さんこのと知ッてゝ?

桂。知ッたら、どうです?

涙子。〔微笑〕いゝえ、どうも。—だが、宮城さんはいつも、赤木さんには丁寧ですねェ?

桂。〔すこし不興のこなし。〕ふン、へえ〳〵いへばよろこばう。—大罪人!またとはねたみ殺ろされんぞ。—さア、あなた、どうぞ、隱くさずに。

涙子。あの、わたしはあの手がみを無くなしましたよ。

桂。無くなした? それだからいかん、うか〳〵と。

涙子。だッて、知らんまに落としたのですもの。

桂。もとより、落としたッて、かまんのはかまん。何にもわるいとでャ無いし、一所に墓まゐりをしやうといッたゞけだから。

涙子。それャア、さうですとも。—わたしははなしたいと澤山ありますが、まア、くちへ出ませんわ、何にからいへばいいとやら。

桂。あなたのおとッさんといふのは、いつ亡くなりました?

涙子。それは、わたしがまだ四ッつのときでしたが、十五のとしに、兄が佛蘭西で不意の病氣で亡くなり、あねも御坐りまして、華族のうちへかたづいてましたが、その子どもまで、無殘な!主人は一とまに押し入れ、ちッとも出してくれず、うらみ死にをしまして。

桂。それャア誰れです?

涙子。いえ、なに、別に知られたお方で御坐りません。—初めはまるで知らんで居ましたが、あとでこれがわかッて、わたしはこの世がはかなくなり、決してわたしャこれからよめ入りはしないと、母と泣いたとさへ御坐りますの。

桂。それはまた、あまりせまい了見でせう?

涙子。でも、人のこゝろは知れませぬものゆゑ。—それに、また、母さま、ぢき先き立たれまして。殘こる身はあぢ氣無く、みやこに來たもひとり。あの病院には入ッてからは、雪子さんばかりがつらい中のたのしみ。看護のつとめせわしくつとめますも、この世に、せめて生まれた甲斐ばかり。

桂。あなたのおこゝろざしは、かねて人に聽きましたが。

涙子。それに、あなた、〔耻づるこなし〕あすこに來ましてから、知らぬ人の手がみがたび〳〵まゐりますが、わたしは、もう、つらきまじはり絶ッて居りますから、—この

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

のちとて、おちから頼むはあなたひとり。

〔見あぐる涙子、見つむる桂。急に桂は涙子の手を取る。〕

桂。涙子さん。

涙。〔身をふるはせて〕はい。

桂。あなた、わたしのこゝろ知ってくださりませぬか？

涙子。えゝッ！〔急にむねのいたむこなし。〕

桂。どうしました？

涙子。すこしむねが。

桂。いたみますか、どれ？

〔これより、捨せりふにて介抱する。〕

桂。どうです？

涙子。すこしよくなりました。

桂。それでは、先づ寺までまゐりませう。

涙子。それでは。〔両人立つ、木魚のおと。〕

桂。和尚が待ちかねて、おつとめをはじめました。

涙子。そんなら、早やう〔木のかしら〕

両人。まゐりませう。

〔涙子かなしみの情よろしく、からすの笛にて、幕。〕

◎二幕目。

(一)宮城官宅應接室の場。

〔本舞台すべて宮城軍醫應接室の躰、眞中にテエブル、上にいけ花。宮城純、赤木此馬、淺見政信、椅子によって居る見えにて、幕明く。〕

赤木。いまのやうな次第ですから、小使なり、何んなり、おこゝろ當たりの御坐いましたら、お世話を願ひます。

淺見。どうぞ、お願ひ申します。

宮城。はい、わたしもこゝろ掛けて見ませう。

淺見。ありがたう御坐ります。

宮城。何んとかおっしゃったな、お名まいは？

淺見。はい、淺見政信と申します。

宮城。政信？〔赤木に向ひ〕きみ、政信とはとき〲ある名だねェ。山口の友人に、田邊政信といふものがある。

赤木。あ、それに會ひました、二三日前、公園で。

宮城。さうですか、どうして？

赤木。なに、山口と散歩してェたんでせう、田邊といって居ましたから。

宮城。そんなに中がいゝのかねェ？

赤木。どうか知りませんが、あれァどういふ人間です？

宮城。どういふて、まァ、あゝいふ通りさ、——「説明はこの限ぎりにあらず」だ。

赤木。はゝァ、これにァ帝國議會も平口しました。

宮城。はゝゝ！しかし、濫屋のおやぢ、なか〱やるでァないか？

赤木。長者議員としては、やり手でせうて。

宮城。きみァあの濫屋雪子としたしいてねェ？

赤木。いや、別にしたしいって、知っては居ります。

宮城。どうだい、上田のやうなァ、メンやさう麵でァない

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

だらう、もらッてャァ?

赤木。はヽヽヽ〔奥より、書生。〕

書生。山口さんが來ました。

宮城。こッちい通せ。

書生。はい。〔書生入る。赤木の目くばせにて、淺見うしろの折りを出す。〕

淺見。これははなはだ失禮なもので御坐りますが。〔差し出す。〕

宮城。いや、それはいかん、わけも無いに物を貰ふ、そんなことがあるものか?

淺見。へヽヽ、實に粗末なもので御坐りますが。

宮城。それャァ、いかん〳〵。

赤木。淺見君、それでは、それは引ッ込め給へ。

淺見。あ、左樣て御坐りますか、まことに粗踈をいたしました。

〔まのわるさうに引ッ込める。〕

宮城。なァに、若し都合がわるけれャァ、爰に來て書生をしてェてもかまはんから。〔奥より、山口進。〕

山口。御免を。——今晩は。

宮城。さァ、お掛けなさい。

赤木。掛け給へ。〔自分の椅子をゆづッて、ほかのにうつる。〕

山口。今晩はにぎやかですなァ?

宮城。そこの緣日だから。

赤木。僕もあッちを通ッて來ました。

山口。赤木君、きみャァいつ來たんだ?

赤木。僕ァすこし先きに。——きみャァ何にかはなしがあるのかね?——僕が居たらわるいんでャァないか?

山口。なァに?

宮城。何にかあるんですか?

山口。はい、すこしはなしが。

赤木。そんなら、わたしはもう歸いります。〔淺見に〕きみ、歸いりませう。

淺見。さァ。

宮城。もう、お歸へりですか?

淺見。はい。

赤木。それでは、いまのことはどうか。

淺見。どうぞ、よろしうお願ひ申します。

宮城。承知いたしました。

赤木。お邪魔をいたしました。——山口君、失敬。

山口。失敬。

淺見。御免くださりませ。

〔宮城兩人を送ッて入る、あとに山口ひとり。懷中より一封を出して見て、またしまふ。宮城もどる。〕

宮城。失敬しました。

山口。いやどうして?——もう、わかいものは仕かたが無いも

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

のですなァ?

宮城。どうして?

山口。どうしてゝ、どれもこれもつやだらけで。

宮城。まさか、淨瑠璃かたりでやァあるまいし。—して、きみやァ、そんなら、ぢいさんかね?

山口。年はまだ取らんでも、澁屋なぞにゃァ、もう、惚れませんさ。

宮城。なァに、惚れてもいゝさ、ほんとなら。

山口。しかし、そんなヿでもあれゃァ、あの赤木の泣くざまが見たい。

宮城。ふゝ、あれゃァどうでもなるんだ、遠ざけてしまやァ。—なる程、雪子の方はどうだらう?

山口。矢張り、さうでせうさ。

宮城。あれのおやは僕とこいぎだから、たびくあれの身の上の注意は賴むのだから。

山口。上田とはむやみにしたしい。

宮城。あれゃァだめだ。上田なぞにゃァ誰れが惚れるもんがあるか?

山口。しかし、美人でせう?

宮城。それゃァ、美人でも。あれゃァ桂のやうなあを二才にくっつくつもりだらうよ。

山口。しかし、そんなだから、また氣がかはって……

宮城。え、桂と離れたか?

山口。いや、なかく離れるどころでやァ御坐いません、ふたりで休暇を取って、一所に墓詣りに行ッたり。

宮城。むゝ、それで、けふ、やすんだんだな。

山口。もち論でさ、まァ、これを御覽じろ。〔以前の一封をわたす。〕

宮城。「上田浪子さま」「桂吾貝」。むゝ、中はなにかね?

山口。まァ、御覽じろ。

宮城。〔手がみを出して讀む。〕「明後日は父の十周忌に付き、墓參致すつもりに候間、御身も休暇を取って、一所におつき合ひ被下てはいかゞに候や? お話し申したきヿはいろく有之候。」〔おも入れ〕おもひまはせば、早や一とむかし。—きみ、これゃァおとゝひ送くって、けふ行って來たんだね。

山口。さうですとも。一躰、あなた、きゃつは剛情で、長官に對してもきのふのやうな無禮なヿをやって、そのうへ、おまけにからですもの、病院に居るわれく軍醫の躰面にかゝはります。

宮城。もとより僕は、役員が身づからこんなヿをやるは好まん。病院を何んとおもふ?—しかし、第一、そんなヿいふものァいけないもんだね。

山口。しかし、あなた、誰れでも、あんなそんなは手に入れたいものです。

宮城。ふゝ、なんぼこっちで惚れたって、向ふで承知しなけれゃァ、たゞあわび同然さ。

山口。しかし、そんなだから、また氣がかはって來ないもんでも御坐いますまい。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

仙臺市 宮城女學校生徒募集

新教員二名を增し益々內部を整頓し入學者の便益に備へり九月十日迄に入學を許す

宮城女學校

● 橫濱 英和女學校生徒募集廣告

九月十五日始業小學校普通高等の三科共學力に應し入學を許す有志者は至急御申込あるべし

橫濱山手二百四十四番橫濱英和女學校

文學界

第二十號 八月三十日發兌

清少納言のほこり　天知
流水日記（完）　孤蝶
三日風流（下）　禿木
迷夢　鷗水
しばふね　朽葉
蕪村句選

其他時文には實利主義及道德主義（其一今の基督敎）○けふこのごろ○蓮の露○其他新刊の評草々

發行所 下谷三輪町八十九番地 文學界雜誌社

發賣所 神田表神保町六番地 女學雜誌社

女學雜誌社出版書

西洋女禮 全

目錄

第一章 婦人紹介の事
第二章 婦人書面紹介の事
第三章 婦人訪問及名刺
第四章 婦人會話の事
第五章 婦人案內の事
第六章 婦人書狀の事
第七章 婦人散步の事
第八章 婦人裝飾の事
第九章 婦人朝夕宴會の事
第十章 卓食上の心得の事
第十一章 寄遇の心得の事
第十二章 音信及贈物の心得
第十三章 主婦客を遇する心得
第十四章 婚姻に關する心得事

定價金拾錢　郵稅金貳錢

女學雜誌社出版書

兒育草 全

本書は育兒に關する一切の事を、極めて平易に、何人にも解し易き爲めに、問答躰になし第拾四回にて完結せり、世の母たる人是非一本を供へ玉へ。

定價金拾五錢　郵稅金四錢

女學雜誌社出版書

子供のはなし 全

目次

第壹回 田舍音樂師
第貳回 菫の君
第三回 熊と旅人
第四回 風と日の喧嘩
第五回 ハイ〳〵トタヾイマ
第六回 カンとクッドの話
第七回 王にも勝てる人々
第八回 母の愛
第九回 柔順なる娘
第十回 英雄の所業

定價金三錢　郵稅金貳錢

發賣所 女學雜誌社書店

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

評論

九月五日發兌
第二十八號目錄
壹冊定價金六錢

◉朝鮮開革案……天民
(一)政閣
(二)經濟及び兵備警察
(三)敎育
(四)後藤伯
(五)蒼海老伯
◉朝鮮の敎育制度を論して東邦協會の問に對ふ
◉朝鮮の傳道
◉はつ秋のたより……蘆壁
◉某の朝鮮開導論
◉臨機高嘯……評論子
戰に定義なし
戰の特別なる天職
金融と細民と商人と義獻者
講學日常の如くせよ
對外硬
來るべき議會
◉僞善者を謹めよ……無光
◉日英新條約を讀む
◉あまごひ……露葉
◉道德及び法律……靜淵

發賣所 **女學雜誌社書店**

明治女學校生徒募集

普通二年級へ(小學高等科卒業相當の者)廿名、同三年級へ十名、高等文科一年級へ五名入學を許す志願の者は九月十日迄に申出べし●小學全科卒業の者は入校后三年にして普通科を全了するを得●學資は授業料毎月一圓二十錢寄宿料一切三圓八十錢圖書費凡そ一圓乃京二圓程とす

東京麴町區下六番町六番地
明治女學校

女學雜誌前號要目

大人苦心のところ 南洲の詩に有之、子孫の爲に美田を買はずと。是れ英雄苦心のある所ろ。具さに傑人の心を剖ひて切に同情を表す。

世界の日本、及其抱負 世界の日本としては、其の天職、何處にある、茲に其の特色を論明して、盛んに新日本の抱負を表白す。

大京地の風俗 山田美妙齋、西京にあそびて、風俗の異樣に感觸し、其の精細なる批評眼にうつして、茲に其の殊狀を畫がく。

時事片々の文 含雪の征かんとするに感慨深く、梧陰の去れるに痛惜多し。多幸伯とは、伊藤伯の事。華族陸奥宗光君の爲めに一言す。新條約中尤とも注意すべき點は何ぞ。基督敎同志會の爲めに圖する所ろあり。

廣告料及無料廣告

一行(廿七字詰)前金十錢
同 三回以上一割引
同 六回以上二割引
○十行以上一割引。○二十行以上二割引。○四十行以上四割引。
但し不道德なる廣告は謝絶す、慈善の廣告は社議の上無代價にて引受く○特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を揭ぐるものにして一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を載する毎に右雜誌十部注文を要し以上半部增さ定む。

本誌代價

册數	定價前金	市外定價郵稅共
一册	金六錢	金六錢五厘
十册	金五十八錢	金六十三錢
廿六册(半ヶ年分)	金一圓四十三錢	金一圓五十六錢
五十二册(一ヶ年分)	金二圓六十錢	金二圓八十六錢

發賣所 東京市神田區表神保町六番地 女學雜誌社書店

發行所 東京府北豐島郡王子村下十條八百五十一番地 女學雜誌社
編輯兼發行人 巖本善治
印刷人 堀口庄三

東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地秀英舍工場印刷(電話十九番)

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY